喫茶室

このたびの東日本大震災では、テレビ中継される現実とは思えない津波被害の甚大さ、これまで経験したことのないまた経験すると思っていなかった原子力発電所事故、今後が想定できない長期にわたる被爆の影響、そして原発事故による電力不足に対する暑い夏場に向けての節電対策等、明るい話が少ない昨今である。

そんな中、突然２つの世界遺産登録の話が伝えられた。平泉と小笠原諸島が、文化遺産と自然遺産に登録されたとの報道である。これまであまりピンとこなかったが、この機会にインターネットで調べてみた。世界遺産とは、1972年ユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」（世界遺産条約）に基づいて登録された人類が共有すべき「顕著な普遍的価値」をもつ物件のことで、移動が不可能なものが対象となっている。

世界中にきわめて多数が登録されているが、日本ではこれまで文化遺産に、法隆寺地域の仏教建造物、姫路城、古都京都の文化財、白川郷・五筒山の合掌造り集落、原爆ドーム、厳島神社、古都奈良の文化財、日光の社寺、琉球王国のグスク及び関連遺産群、紀伊山地の霊場と参詣道、石見銀山遺跡とその文化的景観が、自然遺産に、屋久島、白神山地、知床が登録されており、今回の吉報はそれぞれ12番目、4番目の登録である。私自身何ヵ所か行ったことのないところがあり、せめて国内の登録地だけでもすべて訪れてみたいと考えた。ただし、世界遺産は保全が目的であり、登録による安易な観光地化、観光客によるトラブルや遺産保全の妨げには、十分注意すべきとのことである。

一方これより少し前に、佐渡地域と能登地域が、世界農業遺産に認定されたとの報道があった。こちらは国連食糧農業機関が平成14年度から開始したプロジェクトで、次世代へ継承すべき重要な農法や生物多様性等を有する地域を認定するものと、農林水産省のホームページに記載されている。

ちなみに、世界遺産に登録されるにはまずユネスコに暫定リストを提出する必要があり、日本は佐渡金山をはじめ12件を掲載している。

（鈴木栄一 記）

編集後記

東日本大震災から４ヵ月が経ちました。炎天下での被災地の状況が心配です。

表紙は佐渡の長谷寺の平和なたたずまいです。巻頭言では日本医師会災害医療チーム（JMAT）への本県の関わりが述べられています。小林理事はJMATで石巻市へ行き、避難所の衛生状態の改善に貢献しておられます。学術ではオープンアクセスジャーナルの躍進と功罪を渡辺先生が解説しています。医政展望では丸山理事が厳しい環境の下での地域産業保健センターの活動を紹介しています。県医師会からの報告では医療と介護の連続性の重要性や、新潟県と協議して被災地への医療支援に取り組んだ経緯が紹介されています。郡市医師会だよりでは、新発田地区救急診療所が新発田病院の正面に４月11日に開所したことがお知らせされています。また廣神会長は、東日本大震災を克服して母国が再建されるように、一致団結を呼び掛けています。

勤務医の広場では、南魚沼の地の病院長として頑張っておられる福田先生が御意見を述べています。寄稿では英国で医師になった若い先生方が、両国の医学教育と医療制度の違いを通して、我が国のあり方を考察しています。随想では、朋友への想いを仲村先生が、節電のありかたについての御意見を福本先生が投稿しています。こしじ往来では長岡赤十字病院救命救急センター長である内藤先生が、被災地で５回にわたり延べ20日間、DMATとして活動した体験を紹介しています。医師会JMATよりもはるかに過酷な勤務を無事に終了された御様子ですが、誠にお疲れ様でした。

Ｑ＆Ａは放射線・放射能について杉田先生が解説しています。ファミリーダイヤルは西山町の小川先生の御子息からいただきました。アフターファイブと喫茶室も御覧ください。

来月は緑陰随筆が掲載されます。皆様からの投稿をお待ちしています。

（勝井　豊 記）

編集委員：宮　一路・山内春夫・勝井　豊・新田幸蓉・永井博子・恩田　晃・高木正人・上野光博・中川　悟・山村倉一郎

新潟県医師会報・第736号〔平成23年７月〕

発行所　〒951-8581　新潟市中央区医学町通２番町13番地　新潟県医師会
電話　代表（０２５）２２３－６３８１　FAX（０２５）２２４－６１０３
ホームページ　http://www.niigata.med.or.jp　E-mail kaihou @ niigata.med.or.jp
印刷所　〒950-8724　新潟市中央区和合町２丁目４番18号　株式会社 第一印刷所